

小山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別演習 (キャリア設計)
科目基礎情報						
科目番号	0078			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義・演習・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 0	
開設学科	物質工学科			対象学年	5	
開設期	集中			週時間数		
教科書/教材	必要時に適宜資料を配布					
担当教員	井上 一道					
到達目標						
1. 自身の将来のありたい姿 (キャリアデザイン) に対して、自らの現状を認識することができる。 2. 自らのキャリアデザインに対して、現状で必要な学習や活動を考えることができる。 3. 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自身の将来のありたい姿 (キャリアデザイン) に対して、自らの現状を明確に認識することができる。		自身の将来のありたい姿 (キャリアデザイン) に対して、自らの現状をほぼ認識することができる。		自身の将来のありたい姿 (キャリアデザイン) に対して、自らの現状を認識することができない。	
評価項目2	自らのキャリアデザインに対して、現状で必要な学習や活動を明確に考えることができる。		自らのキャリアデザインに対して、現状で必要な学習や活動をおおむね考えることができる。		自らのキャリアデザインに対して、現状で必要な学習や活動を考えることができない。	
評価項目3	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを的確に説明できる。		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかをほぼ説明できる。		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自身の将来のありたい姿 (キャリアデザイン) に対して、自らの現状を認識し、各学年において必要な学習や活動を考え、自身の希望を叶えるための人間力を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法	キャリア支援室により設定された1～4年次における学内外の各種セミナーやキャリア設計活動を通じて、卒業時に単位認定される。なお、キャリア設計活動には必須と選択の種別がある。					
注意点	各活動については、担任からの連絡や教室掲示等にて連絡されるので、その指示に従うこと。 必須とされている活動については、正規の理由以外での欠席は再受講が認められないこともある。 キャリア支援室により設定されていない各種セミナー等についても、内容に応じて認めることもあるが、随時キャリア支援室 (学生課) に相談すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	【必須】 1 年次 キャリアプランニングシート	1 年次における自らの現状を認識し、振り返ることができる		
		2週	【必須】 1 年次 キャリアアップセミナー	1 年次における現状で必要な学習や活動を考えることができる		
		3週	【必須】 2 年次 キャリアプランニングシート	2 年次における自らの現状を認識し、振り返ることができる		
		4週	【必須】 2 年次 キャリアアップセミナー	2 年次における現状で必要な学習や活動を考えることができる		
		5週	【必須】 3 年次 キャリアプランニングシート	3 年次における自らの現状を認識し、振り返ることができる		
		6週	【必須】 3 年次 企業論	3 年次における現状で必要な学習や活動を考えることができる		
		7週	【必須】 4 年次 キャリアプランニングシート	4 年次における自らの現状を認識し、振り返ることができる		
		8週	【選択】 3 年次 進路選択と目標設定セミナー	4 年次における現状で必要な学習や活動を考えることができる		
	2ndQ	9週	【選択】 3 年次 就職・進学活動に必要なマナーセミナー	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		10週	【選択】 4 年次 インターンシップ説明会	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		11週	【選択】 4 年次 進路説明会	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		12週	【選択】 4 年次 就職・進学活動サポートセミナー	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		13週	【選択】 4 年次 ES・面接対策講座	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		14週	【選択・3～4 年】 大学・大学院説明会 (オープンキャンパス時開催)	進路選択に係る知識を身につけ、今後の活動に活用することができる		
		15週	【選択・2～4 年】 本校協力会主催 ジョブセミナー	高専で学んだ知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを考えることができる		
		16週	【選択・2～4 年】 県主催 企業概要説明会	高専で学んだ知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを考えることができる		
後期	3rdQ	1週				

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	

				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100